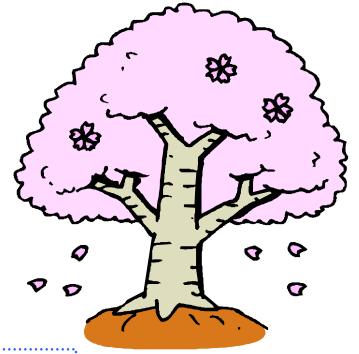


青空通信



NPO 法人 ウェルコミュニティ飛騨

青空作業所・高山市山口町 1297-1 0577-35-1559

<http://welcomhida.web.fc2.com/> 平成 23年4月28日発行 第13号

理事長あいさつ

理事長 柏木 真司

日頃より、ウェルコミュニティ青空作業所の活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。またこの度、3月に起きた東北関東大震災では多大なる被害が出ていますが、被災によりお亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を祈念いたしております。

本年度は、法人設立5周年の節目であり、また青空作業所が山口町に移転してちょうど一年となります。作業所を利用しているメンバーが毎日元気に働けるのも地域の方々をはじめ、ご支援いただいている皆様方のお陰であると深く感謝申し上げます。

この度の大震災から私たちはいろいろなことを学ばなければいけないと思います。作業所では、終わりのミーティングにおいて最後にメンバーと目標を唱和し、活動の意識付けを行っています。今は被災者へのお見舞いの気持ちと被災地復興の祈りを忘れず、元気で働くことへの感謝、譲り合い、助け合いの気持ちの大切さを確認し合っています。

具体的な行動の一つとして節電に取り組みはじめ、メンバーの中から節電担当責任者を決めました。休み時間には電気を消し、ストーブもこまめに消火し、便座の暖房も温度を下げて使用しています。小さな取り組みかもしれませんが、皆が気持ちを一つにして取り組むことに大きな意義があると感じています。

この大震災により、これまであまり意識することのなかった人の心に宿っている優しさに皆が気づいたのではないのでしょうか。これからこの優しさを忘れず皆が助け合い、支え合い生きていける社会を作っていきたいと願っています。

新職員あいさつ

はじめまして。藤井成美（ふじいなるみ）と申します。この春から NPO 法人ウェルコミュニティ飛騨でお世話になることになりました。高山市出身で、大好きな高山で働くことができ大変嬉しく思います。しかし、社会人としてまだまだ未熟であるため、皆様のご支援をいただきながら、社会人として、ワーカーとして成長していきたいと思っております。

毎日笑顔忘れず、皆様と過ごせる1日1日や皆様方との出会いを大切に過ごしていきたいです。また、ウェルコミュニティ飛騨の職員として皆様に知っていただき、施設の伝統に恥じない行動を心がけていきたいと思っております。至らない点も多々あると思っておりますが精一杯頑張っておりますので、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

誕生日：1月23日

星座：みずがめ座

血液型：A型

趣味：DVD鑑賞、散歩

性格：涙もろい、負けず嫌い、笑うことが好き

今年の目標：「皆様に顔を覚えていただく」

「社会人・ワーカーとして成長する」

「新しいことにチャレンジする」



最近の活動報告

卒業者交流会



1月19日、青空作業所から卒業し、就職をした2名を交えて、交流会を開きました。おいしい豚汁を食べながら、卒業者からの話を聞きました。働くということを皆で考えたり、卒業者にたくさんの質問をしたりと有意義な時間が過ごせました。



調理実習

3月14日、調理実習を行いました。メニューはお好み焼き、餃子、コーヒーゼリーの3品。みんなでおいしくいただきました。

講習会

厚生病院にて、メンバーが講師となりカゴ作りなどの講習会を行っています。みなさん熱心にカゴを作ってみえます！



バレーボール大会

あじさい会4月の行事は、ビッグアリーナにてバレーボール大会でした。みんなで1つのボールを繋げようと声を掛け合いながら頑張る姿が見られました。



卒業生レポート

前号の卒業生レポートでお伝えした竹下英美さんは、現在高山市の緊急雇用創出事業を利用してトータルプランニングオフィスに就職し、飛騨の里で主に清掃業務を行っています。今号では竹下さんを現場で支援してみえる支援員の方とトータルプランニングオフィス飛騨の社長さんにお話を伺いました。

社長さんにインタビュー

Q 支援をする際、大切にしていることは何ですか？

A: 本人の目線に合わせ、支援をすること。それだけではなく、その上を目指すような支援をしていかなければいけないため、社会のマナー・ルールも教えていくように心がけている。叱るときは真剣に叱り、その分褒めるときは真剣に認めてあげるなど飴と鞭を使い分ける。



Q 支援をしていく上で工夫したことはありますか？

A: 休みがちだった人がいたので、出勤表を作成し、出勤したら自分の名前の欄に○をつけてもらうようにしたら休みが減った。視覚的に自分が頑張ったということがわかるということが良かったのかもしれない。こういった工夫が定着につながるかと思う、今も実行している。

支援員さんにインタビュー

Q 支援をする際、気をつけていることは何ですか？

A: 本人の自立に向けてすぐに手を貸すのではなく、気長に辛抱強く待つ指導する。



Q 働くうえで大切にしてほしいことは何ですか？

A: 挨拶、返事、笑顔は常に忘れないでほしい。出勤時と退勤時には社長のところへ必ず行くように指示したり、観光客への挨拶も徹底するようにこちらも指導している。

Q 支援者としてのやりがいは何ですか？

A: 3年間という期間は決められているが、就職したいという思いを持つ障がい者に対して、企業に送り出してあげたいという夢を持ち続けているので、指導も頑張ろうと思えることがやる気ややりがいに繋がっている。

働くということはお金を稼ぐという目的の他、生き甲斐、社会貢献など様々な意義があります。作業所を卒業して就職したメンバーと会うと皆、目が輝き表情が凛々しく感じられます。障がいがあるという理由で働く機会が失われてはいけないと思います。今回訪問した会社のように障害者雇用に理解のある企業が一つでも増えることを願っています。ご協力ありがとうございました。